

わ」ができた。専門家でも緊張したりして固くなるものだが、実に堂々として書くことができた。

今回、本物にこだわって硯で墨をすることから始め、毛筆で和紙に書くことにした。毛筆書の良さを少しでも感じてもらったと思っている。自分の書いた文字が日常的に生活空間にあることの喜びを感じてもらいたいと願っている。

第3回 8月21日(日) テーマ「みんなで大作に挑戦しよう！」

・書道パフォーマンスを体験

思いを伝えることができる“書”。そして書の迫力を感じてもらい、併せて参加者が協力して一つの作品を作り上げたい。この目的のために大きな紙、大きな筆を用意して大作に挑戦することにした。

○活動＝道具に慣れるため、畳1枚くらいの大きな紙に大きな筆で書いた。課題として選んだ文字の「心」を書いてみる。

合作では全員が自分の書きたい文字を一枚の大きな紙（縦2m横5m）に書くことで協力して一つの作品を制作した。

書には様々な書きぶり（書風）があり、どの書きぶりで書いたとしても自分が表われた作品はどれも素晴らしいことを説明し、自分の個性を生かした自分の文字を自由に書くことを目標とした。

○成果＝大きな作品づくりは初めての経験であったと思われるが、大胆に書くことができ素晴らしい書が出来上がった。各自が選んだ文字をその思いを込めて書き、個性が表われていたことがいい作品となった。揮毫中などみんなで協力して一つの作品ができたことが良かった。

最後に感想を述べあったがそれぞれが自分の思いを書くことができた満足そうであった。

#### 【まとめ】

書道は古くは教養の一つとして尊ばれ、幼いころより必須の科目であった。現在では学ぶ範囲が広くなり、利便性の観点からも次第に生活から離れていった。その一方で心の豊かさを追求し、自分らしく生きたいとの考え方もある。多様化する社会に対応するために主体的に学び続けることが大切である。書にも多様性があり、それぞれの美しさを持っている。奥深さも広がりもある書のすばらしさを知って欲しい。

今回の講座では幅広い書の分野のごく一部を体験したのみであるが、学びを通じて何か伝統感じてもらえたら幸いである。書は伝統文化として最高のものであり、生涯にわたって学ぶことのできるものとして続けてほしいと願っている。



## 春日井市ドリームサッカーフェスティバル

### 【趣旨】

全ての人がお互いの違いを認め合い、障がいがあるなし関係なく地域の中で当たり前に出る。それがインクルーシブ社会の実現だと考えている。

しかし、学校教育や就労の場面以外での生涯を通じた学びや生きがいを見つけようとした時に障がい者が制度の間に取り残されている現状がある。行政主催のイベントでも民間主催でも同じ事が言え、学校卒業後の障がい者の学びの場が著しく少ない為、行政・民間一体となって学校、就労以外の受け皿の整備を進めていくことが必要である。本サッカーフェスティバルがそのきっかけの一つとなることを目指す。

2年目を迎えた本事業。障がいを持った方々がスポーツを楽しめる場として、継続して事業実施していける道を模索する。

### 【概要】

#### 1. FC.FERVOR

FC.FERVORは春日井市をホームに30年続く地域に根付く全国でも名の知れるサッカークラブである。対象は幼・小・中学生で、サッカーの技術向上はもとよりサッカーを通じた人間性、自己研鑽、仲間との集団体験などの経験において子供たちの持つ可能性を引き出す事を目指している。プロ選手も多数輩出し、卒業生は各分野でここでの経験を生かして活躍している。

また、FC.FERVORでは、保育園や放課後等デイサービスと連携して、発達に不安のある児童又は障害のある児童とそのご家族の方にスポーツを通して支援していくプログラムを週3回行っている。スポーツを通し発達に不安な多種の運動機能・基礎学習・ルール学習・躰などの要素を積み重ね、指導・訓練していく事で身体能力の向上を図り、日常生活動作や集団適応性を身に付け、将来の自立と社会参加を高めていく基礎となる療育サービスの提供をしている。

#### 2. 活動報告

令和4年度は10月9日(日)・10月23日(日)・12月11日(日)の3回実施。場所はFC.FERVORが持つ春日井インターフットサルクラブで行った。募集人数は各15人程度。

#### 3. 活動で大切にしていること

参加者同士が偏ったペアでのメニューにならないことと失敗してもチャレンジする事を褒め合える雰囲気づくり。また、保護者もスポーツを通じて、体を動かす場とともに交流のきっかけにしてもらえればとの思いから、30分間は保護者が参加出来る場を用意した。また、来た方の運動レベルに合わせて、メニューを組んでいく事を大切にしたい。

#### 4. 課題と課題解決に向けて

学校卒業後の学びの場づくりということで投げかけをしていたので年齢制限は考えていなかった。しかし実際には、幼児(年中)~20代後半までの幅広い方から応募があった。幼児の参加は今回断るか、今回は受けたとして、幼児からの応募があった際には、次年度以降は年齢制限を設けて対応を

考えよう、今年度2回目の講座が終わるまではこう考えていた。また、障害区分を細かく分けて…どこまで障害区分を分けるか。障害区分を分けてどう募集を行うか。応募が少ない状態で自走していける形を作れるか。しかし、これでは区分分けにキリがなく、なかなか講座を広められないことに頭を悩ませた。

目指すのは、福祉の枠組みではなく民間の活動の中の余暇の枠組み。この3年間の委託事業を受けている間になんとか民間でも自走していく形を作りたい。

しかし、本年2回目の講座が終わった段階で、年齢制限は必要ないんじゃないのかと言う結論に至った。

こんなエピソードがあった。

当講座は、参加者同士が様々な方々と関われるようにチーム分けを行ってきた。その中で、二人1組でのボールワークの際、Aさんと幼児のBさんとのペアの時間が回って来た。自分のやりたい事を貫きたいAくん。周りとの温度差も気にせず、ボールを強く蹴ってしまったり、激しく体をぶつかけたりしてしまう場面もあった。それまで我を通して来たAくんだったが、Bさんとの順番になると、目線をBさんの高さに落とし、優しい口調と優しいボールのアプローチ。Bくんが上手に出来た際は、Bくんを褒め、一緒に喜ぶ姿があった。その事をみんなで喜ぶとAくんもとても嬉しそう。どうなるのかと言う不安はあったが、僕らが感じていた不安は全く必要のないものだった。それは他の参加者の時も同じだった。

求められるのは、個別の配慮かもしれないが、今回の考え方としてはスポーツを楽しむ、サッカーを楽しむ入口づくり。初めから入口を狭めすぎず、幅広く受け入れられる形を大切にしようと思った。

入口としてのあり方ともう一つ競技としてサッカーを楽しむための道筋。

今回のドリームサッカーフェスティバルはどちらかと言うと、入口の部分の制度設計が出来ればと言うイメージで進んでいた。しかし、春日井高等特別支援学校のサッカー部から18人でドリームサッカーフェスティバルに参加したいと投げかけがあってから、もう一つの道が見えた。入口としての講座に参加したいのか。それともうまくなりたいのか。

早速、春日井高等特別支援学校サッカー部に連絡をし、確認を取った。すると、競技としてレベルアップをしたいと言う事だった。県内の特別支援学校のサッカー大会では、長年豊田高等特別支援学校の一強がずっと続いているそう。11月にも春日井高等特別支援学校と豊田高等特別支援学校と県大会の決勝で当たったが、0-5で負けた。この一強状態を崩したい。なんとか力を貸していただけないかとの事だった。

そこで、部活動への外部指導員として加わる事を提案し、まずやってみようと言う事になった。

11月27日にクリニックを実施。今後の関わり方については協議を進めていく。また、OBチームも今年から出来上がり、活動を始めた。現役チームと練習を一緒に行うこともあり、お互いに技術を磨く形をとる。

FC.FERVOR × 春日井高等特別支援学校サッカー部との連携の形。

目標は豊田高等特別支援学校に勝つ事。両者の目的が明確に一つになった。

もう一つ、本事業を継続して進めるのに継続したボランティアの確保が必須であった。本事業への理解と障がいを持つ方への対応の慣れなど、一民間クラブではなかなかマンパワーを得られず、頭を悩ませていた。しかし、こちらも中部大学伊藤佐奈美ゼミと連携が決定した。（令和4年11月11日）委託事業が終わった後、また委託事業外でも継続してゼミ生をボランティアとして派遣していただける事に決まった。これにより、今後FC.FERVORとして、障がいを持つ方々がサッカーを楽しめる講座を組むことが可能に。来年度からは年3回のドリームサッカーフェスティバルだけでなく、毎月か2ヶ月に1回開催を目指す。

また、本講座に参加していた方の中から幼児や小学生が参加出来るこういった講座はないかとの問い合わせをいただいた。そこで、今後のドリームサッカーフェスティバルの流れの中で解決出来ないかを体系付けて考えてみた。

基本的には入口としてのフェスティバル。こちらで十分にやれば、FC.FERVORが従来から行っている幼児・小学生・中学生のスクールに案内をし、次のステップを踏めるようにする。また、高校生以上となれば、春日井高等特別支援学校サッカー部OBが作るチームへの参加。OBチームはFC.FERVORが外部講師として関わる現役サッカー部と練習等で交流。これで幅広い年代が従来のメニューと無理なく組める事になった。

元々、フットサルには個人参加という参加制度があり、ドリームサッカーフェスティバルの発展形をこちらに照らして行っていくことはFC.FERVORとしても受け入れやすい。フットサルは本来5対5で戦うチームスポーツ。基本的に10人集めないといけない。チームに所属していれば、10人はすぐに集まるが、そうでない方はなかなかそうはいかない。そこで、例えば毎週水曜日20時に個人参加があるよと企画があると、その日のその時間にフットサルをしたいと言う方が集まって来て、事務局仕切りの下、集まった中で即席チームを作り、フットサルを楽しむ。この形を基に当日参加したい人が予約連絡をフットサル場に入れ、ドリームサッカーフェスティバルを自走して今後も行っていく。

この他、今後は春日井高等特別支援学校に体育の授業に外部講師としていくことを調整していく。

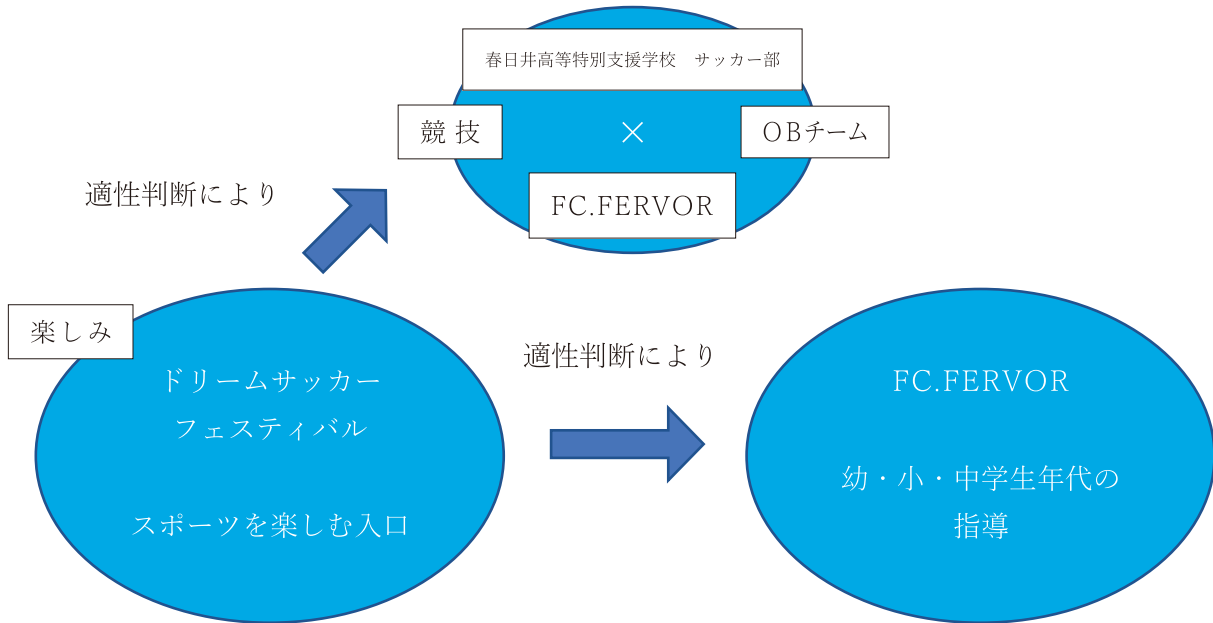
#### 【結論】

障がい者にとって学校卒業後の一生涯の学びの場を確保し、定着、生活していく上での楽しみになっていくためには、今後も継続していく必要があると考える。

昨年の事業後は、障がい者、健常者共に経年での意識の変化や対応を見ていく2年目以降、一般参加者の参加も募り、障がいの有無に関わらず混ざり合える共生社会の実現に向け、サッカーを通じて相互理解の機会をつくる必要があると感じた。と、結論付けていたが、2年間本事業を行うことで、無理に一般参加者と混ぜる必要もなく本事業の入口としての役割と競技としてサッカーを楽しむための2つのアプローチが必要だと感じた。障がいにフォーカスし、サッカーを誰もが楽しめる入口、そこから年齢別の適性を見定め各カテゴリーへの推薦できる環境の構築。障がいの有無によって踏み出せなかった一歩を踏み出せるような体系をデザインすることが結果、学校卒業後の一生涯の学びの場になるのではと考える。

指導ではなく、余暇活動として行っていくために指導者としてではなく、エンターテイメント要

素を取り入れながら行っていくこと。自らの楽しみを自ら開拓していく喜びを実感してもらえるように、交通アクセスについても全てを用意するのではなく、一緒に考えていける体系を今後は進めていきたい。

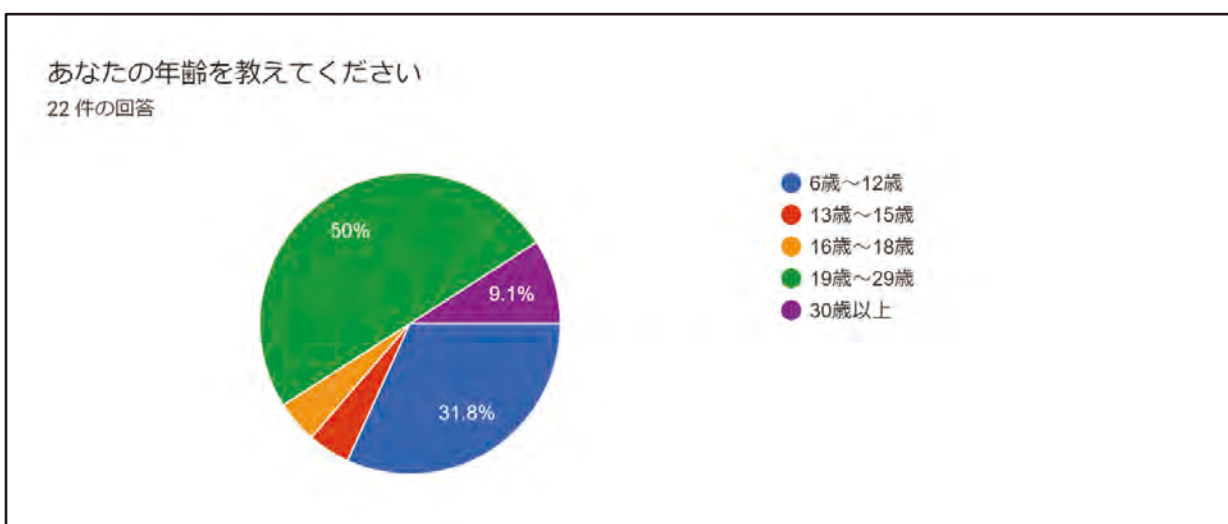
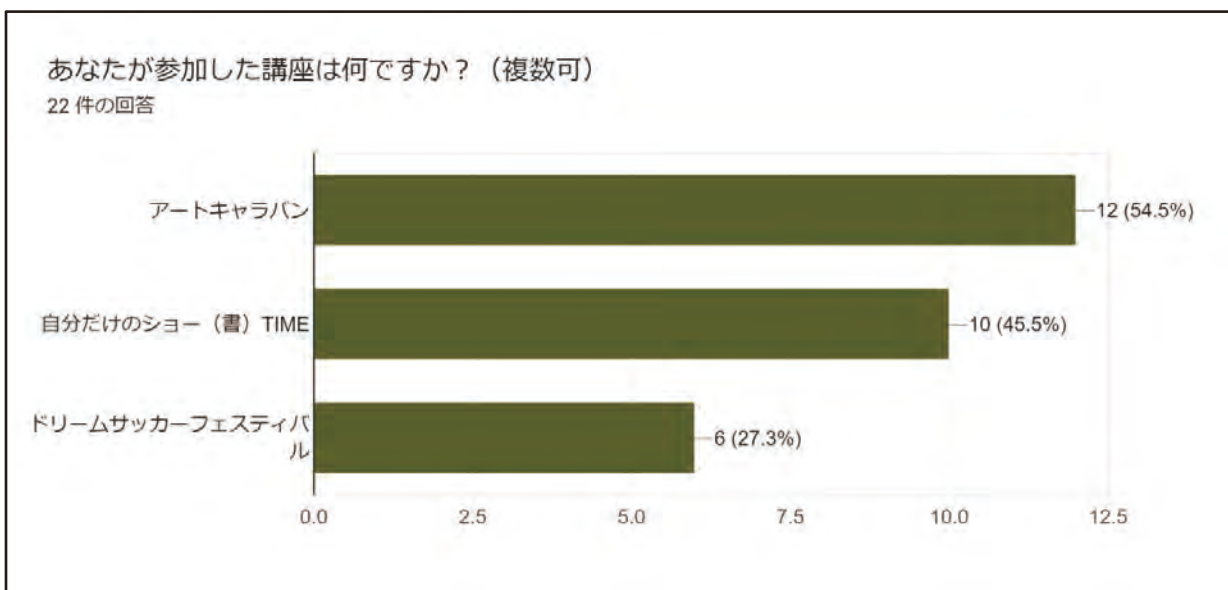


## 講座アンケート

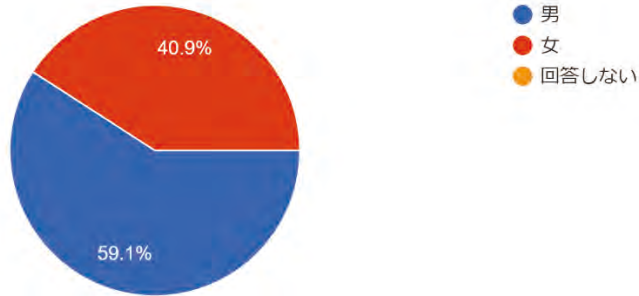
講座の参加者に各講座のアンケートに協力してもらった。

- 春日井インクルーシブアートキャラバン参加者：延べ 18 名  
学生ボランティア：延べ 20 名
- 私だけの書 TIME 参加者：延べ 22 名
- 春日井ドリームサッカーフェスティバル参加者：延べ 22 名  
学生ボランティア：延べ 12 名

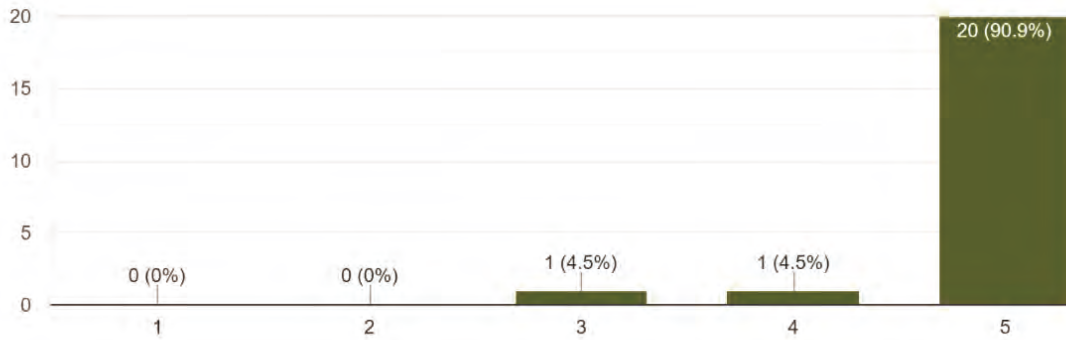
なお、アンケートに回答している方は、複数の講座に参加した人もいるので、同じ人が違う講座について回答していることもある。



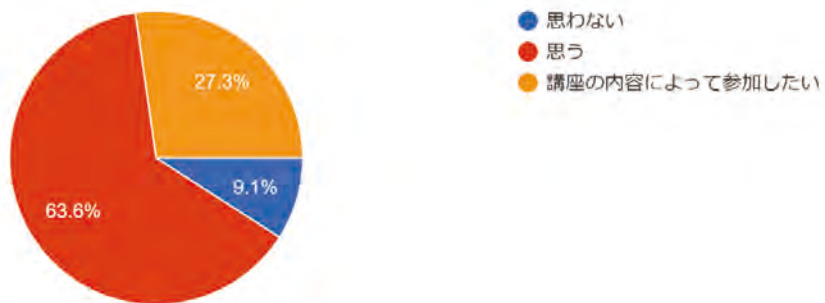
あなたの性別を教えてください  
22件の回答

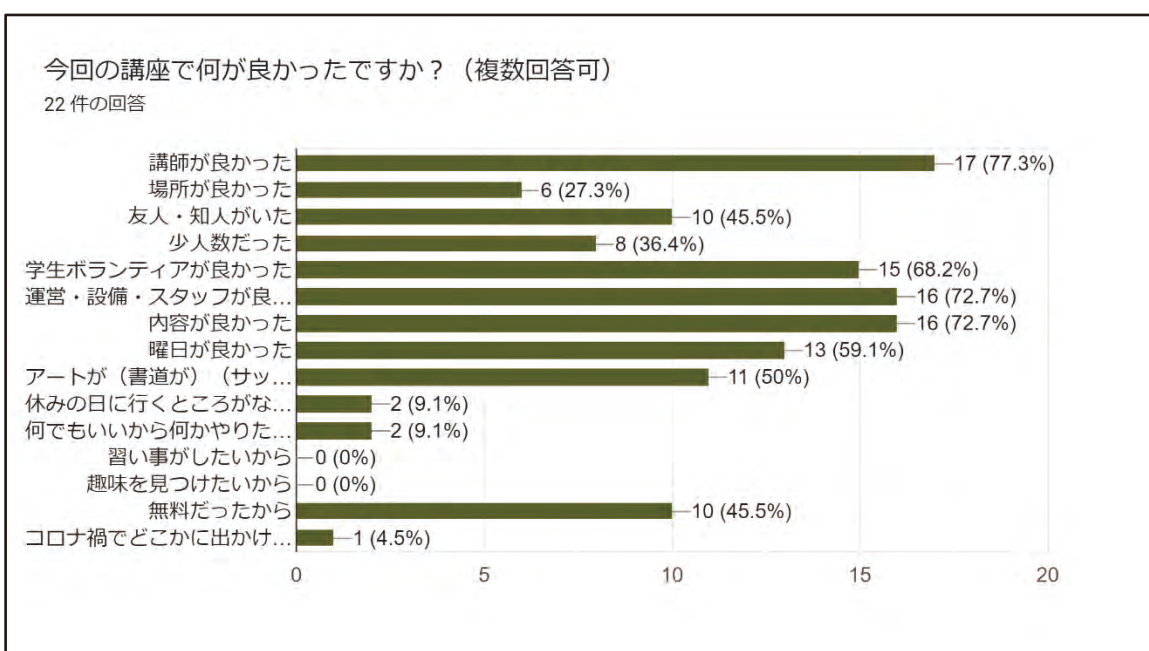
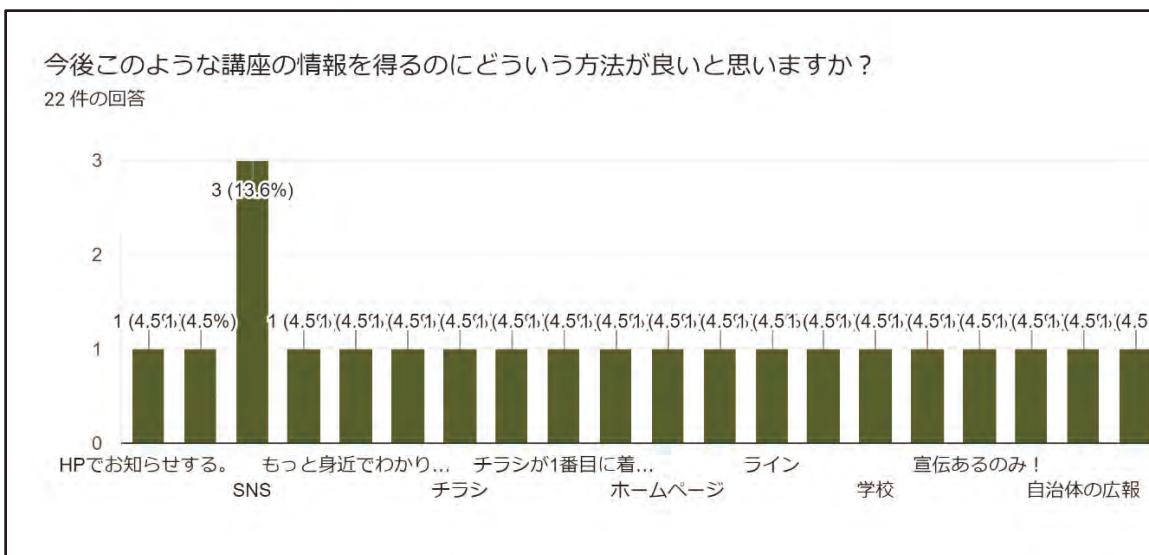
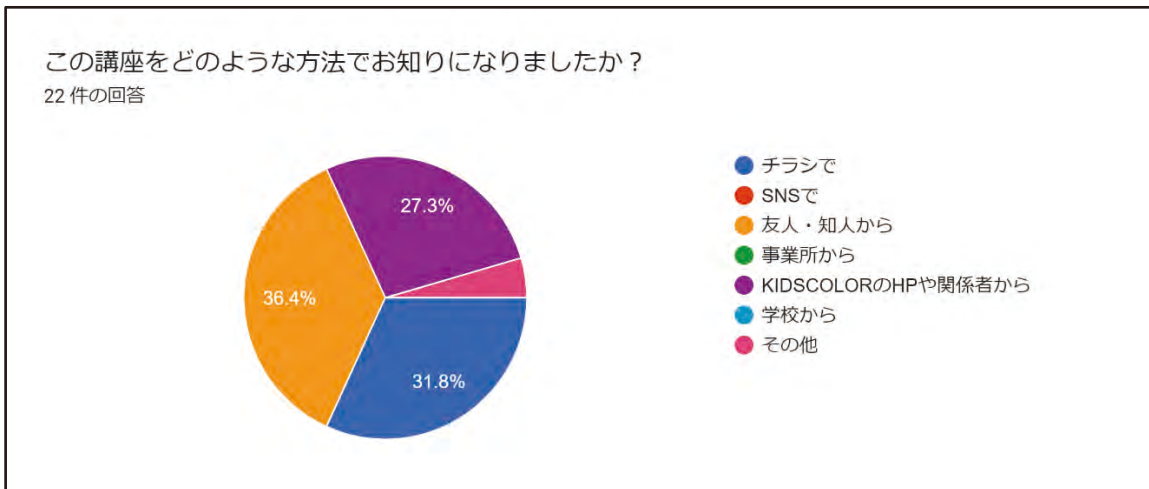


講座はどのくらい満足されましたか。  
22件の回答



またこのような講座に参加したいと思いますか。  
22件の回答

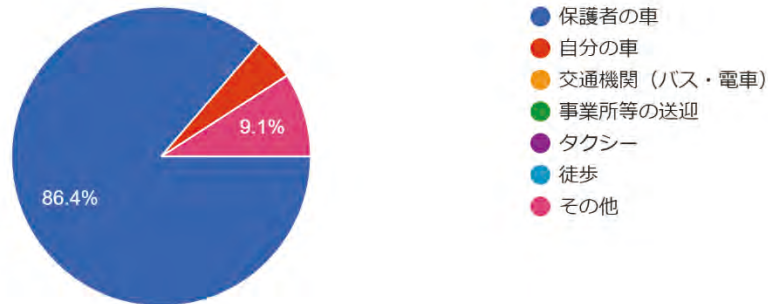






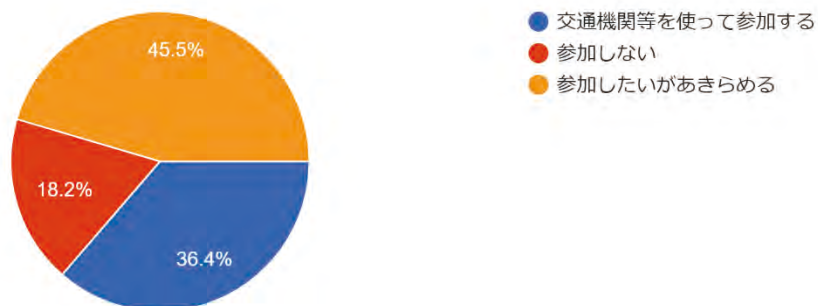
会場まではどうやって来られましたか？

22件の回答



今後行きたい講座があったとき、保護者や事業所の送迎がなくても参加しますか？

22件の回答



### ○その他自由意見

- ・ボランティアの方が一緒に描いて下さったり、先生がアドバイスをして下さいました。志村先生と一緒に塗って下さったので、作品が出来上がりました。絵を描く楽しさを改めて感じることができました。またやってみたいです。ありがとうございました。(アート)
- ・学生と子供の楽しく交流している姿が見れ嬉しかったです(アート)
- ・重度の知的障害なので、家族だけで取り組めたのがありがたかった。新しい事に挑戦出来る機会が少ないので、いい経験になりました。(アート)
- ・なかなか造形の内容の機会がないので、また機会があれば行きたいです。(アート)
- ・1回目は、初めて墨をするという貴重な体験ができて、有り難かったです。1回目、2回目とお話をしたくなくても、ずっとお話してしまう方が2回共親子共に謝って見えませんでした。立ちたくても立たなかったり、最初から最後まで頑張ってみえた事、2回目の講座でも先生が彼の良さを褒めていた事を伝えるし、謝らないで下さいねとお伝えしました。そうすると、彼がお母さんから離れて安心して学べる場があるとやはりいいなーと感じました。謝られてはいたものの、お母様もお子様も次回を

楽しみにしているとの事で、このような場は有難いんだなと感じました。

私自身も大人になり褒められる事を普段求めてはいないけれど、やはり皆さんの前で字を褒めて頂くと、子どもも私の字は下手だ！と言い張っていたのに、お母さん上手だね。と初めて字を認めてくれてやはり嬉しかったです。我が子も認められた事が嬉しいようで、帰ってすぐ、お風呂掃除、トイレ掃除を念入りに自らしてくれました。夏休み初めての事です。大人も子どもも、障がいがあるがなかろうが認められる場所は人間大事だなと思いました。座り方も配慮して下さり、座り方によっても変化するなど色々勉強させてもらえました。このような貴重な経験をさせてもらえてありがとうございました。文が見返せないので、まとまりがなくすみません。次回もよろしく願い致します。（書道）

- ・ 第一回目の時助手の方が上手く書いてほしかったみたいですが、いい方がキツくやらされてる感じがしました。本人も怒られてると思ってしまったみたいで、先生は、上手に書いてほしいから、一生懸命アドバイスしてくれたんだよと伝えました。（書道）
- ・ 土曜日の方が行きやすいかな。（書道）
- ・ 大きな筆は初めての体験だったので、とても嬉しそうでした。このようにできる講座を求めているとおっしゃってみえる方もいました。書道にはまり、今回の先生の教室に通わそうかと思っていると試してみえる方もいました。このような体験会を開いて頂いた事、感謝しております。（書道）
- ・ 休日に、家族以外と余暇を過ごす場所がないため、このような場を設けていただき有難かったです。また機会がありましたらよろしくお願いします。（サッカー）
- ・ 運動の苦手意識があり、サッカーは苦手だから参加しないと言っていたにも関わらず、参加してみると最終日には自分からボールをカットしに行ったり、パスをしたり、シュートをしたりと初めて見せてくれる姿にビックリでした。ボランティアの方の寄り添い方もお母さん方が安心されるくらいで、今後もこういった活動が続くといいなと思いました。支援学校や、小学校の先生に就職が決まってみえる方が沢山いて、その子その子の特性を知ったり、体育の授業でも生かして頂けそうなので、今後の愛知の未来も明るいなと感じました。先生はもちろん、1人1人に合った支援をして下さり、みんなが楽しめる工夫を随所に見せて私も勉強になりました。このような機会を与えて頂いてありがとうございました。（親記入）（サッカー）

## サッカー講座に参加した学生ボランティアへのアンケート

サッカー講座3回に延べ12名の学生ボランティアが参加し、8名の回答を得た。

### 1. 今回の活動をあなたは楽しみましたか

8名全員が「とても楽しんだ」と回答。

### 2. その理由は何ですか？

- ・ 障がい者とスポーツを通して活動する中で、多くのコミュニケーションをとることができたため
- ・ 5歳から21歳の方までの計5名の方と関わり、パス練習をしたり、ゴールを決めたらハイタッチをし

たり、一緒にサッカーを楽しむことができました！

- ・障害のある方と楽しくサッカーができたり、サッカー以外での会話も楽しくすることができたから。また、様々な種類の活動に障害のある方と協力して取り組むことができたから。
- ・学生や子ども、コーチと共に雨が降りながらもサッカーができたからです。初めて雨の中でスポーツをやりました。
- ・本日は最初にビーチバレー選手の方と一緒に体を動かす作業を行った。音楽に乗って体を動かす活動は、障害を持つ方も楽しそうに行っており、私自身も一緒に活動できて楽しかった。サッカー教室に関しても、前回も参加していた方とは更にコミュニケーションを取ることができ、初めて参加した方たちともうまくコミュニケーションを取ることができたから。
- ・前回よりも天気に恵まれ、子どもの笑顔や保護者の方とお話ことができました。今回は場に慣れて、楽しむことができました。
- ・はじめは、どのような方がいるのか分からなく、緊張していたが、向こうから積極的にしゃべりかけてくれたのでどんどん馴染んでいき、楽しく身体を動かすことができました。
- ・障害を持つ方と沢山話しながら交流ができ、どの方もみんなうまくなっていたので、様々な練習と一緒に楽しく取り組むことが出来たから。

### 3. 参加した障害のある方は楽しんでいましたか？

8名全員が「とても楽しんでいた」と回答

### 4. その理由は何ですか？

- ・子どもたちのつぶやきの中に多くの「楽しい」という声を聞くことができたため
- ・笑顔がたくさん見られたため。
- ・運営の方々が用意してくれた練習に対し、主体的に楽しく行っていたから。また、障害を持つ方々同士での交流や、私たちとの交流や会話を楽しんでくれていたから。
- ・笑顔が沢山見られたり、保護者との会話で「遠くにシュートすることができた」「この子とこんなことがはなすことができた」などの前向きなお話が聞こえてきたからです。
- ・楽しんでいたと思います。今回はママ友内でこの教室の紹介があり、子どもが本来の参加人数よりも多い形になりました。
- ・帰り際に、参加者からとても楽しかったと言ってくれた。
- ・3回の活動の機会の中で、知識や技能が確実に身に付き、楽しみながらできており、障害を持つ持たない関係なく、サッカーを楽しみながら取り組むことができていたと感じるから。

### 5. この活動に参加した感想、意見を自由に記述してください

- ・これまで障害を持つ方々に関わる機会はあまり多くなかったので、どのように関わればいいのか、交流することの楽しさを感じることが出来たので良かった。また来年も参加する機会があれば、ぜひ参加してみたい。これまでのボランティアで学んだことを、今後の教育実習や現場での経験に活

かすことが出来るようにしていきたい。

- ・ 前回の活動よりも参加した人数は多かったが、なるべく全員と関わることができるように参加した。前回は参加した方や、参加した人の中で年齢の高い人たちとはうまくコミュニケーションを取ることができたが、年齢の低い子どもたちとはうまくコミュニケーションを取ることができなかった。一緒に楽しむこともできたが、全てがそうではなかったので、どのようにコミュニケーションを取ることが必要なのか考えたい。また、障害を持つ方同士での交流を見ていると、年齢の高い方が年下の子を気遣い優しく教えていたり、声をかけていたことが印象に残った。
- ・ 今回の活動で印象に残ったことは、前回なかった異年齢同士の子どもの関わりが見られる場面がありました。それは、異年齢同士の子どもでボールをパスし合う活動がありました。そこで、年上の子どもが年下の子どもに優しく接したりしている姿や活動が終わったあとに、「ありがとう」と会話をする姿が見られました。今回は年上の子どもから普段は関わらない相手と関わる活動があることで、周りを気を使おうとすることが出来るんだと知ることが出来ました。
- ・ 上手くできない子に対して、お手本を見せながら教えたことによって少しずつその子ができるようになった。このことから、教える時は視覚的にお手本などを見せてあげることが有効だと気づくことができた。
- ・ 自分は人見知りな方だと思っていましたが、一緒に参加してみると積極的に話しかけることができました。
- ・ 教職インターンシップでは児童たちとの交流の機会がなかったが、外から見て学んだ先生方と児童との関わり方や接し方を実際に行うことができたと感じた。また、障害を持っていても私たちと同じようにスポーツや様々な活動を一緒に楽しむことができるのだと改めて感じた。
- ・ 自分自身の考えが変化しました。障害のある子どもを支える保護者は前向きなんだと考えが変わりました。それは、中部大生という初対面の人に対して人見知りをせずに受け答えをしてくれる子どもたちがいました。このような活動に進んで参加をしようとする保護者がいることで子どもは新しいことに挑戦してみようと考えられるんだと思いました。このような姿から温かさを感じました。

## 6. 障害のある人が学校を卒業した後の学ぶ機会や余暇を楽しむ機会について、あなたはどのように考えますか？

- ・ 学校生活の中では、学習する機会や運動をする機会がある。しかし、指導員の方も言っていたように、卒業後はそのような時間が少なくなってしまう。さまざまなことを学んだり体験したりすることは、自身の成長にもつながるため、児童がさまざまな活動に参加できるような機会を与えることはとても重要だと感じた。
- ・ 今日参加させていただいた教室のように企画を考えてくれる方、一緒に参加してくれる方など色々な人が必要だと考えます。
- ・ 運営の方々のお話でもあったが、障害のある方々がスポーツや余暇活動を行う機会が少ないという

現状があった。今回の経験を通して、障害のある方でも一緒に楽しめる機会や余暇活動をもっと増やすことが必要であると感じた。卒業後の学ぶ機会や余暇を楽しむ機会を通して更に成長を促すことができると感じた。

- ・このサッカー教室のように、障害のある人々が今まで関わったことのない人（中部大生など）と関わる機会がもっと増えたらいいなと思いました。また、このサッカー教室に参加する上で保護者はどこで情報を得たのか疑問に思いました。

#### 7. インクルーシブな社会をつかっていくために必要なことは何だと思いますか？

- ・障がいがない人、ある人がスポーツなどのあらゆる活動で関わり合うことができる場の提供や、障がいがある人たちが安心して過ごしたり活動したりすることができる環境整備が必要だと考える。
- ・温かいコミュニケーションが必要だと思います。話す言葉、聞き方などを少し工夫するだけで障害のある人も安心して過ごせる環境が作れると思いました。
- ・今回の活動のように、障害を持つ方と健常者の方が一緒になって参加・活動できる取り組みを国を挙げて少しずつ広げていくことが必要であると考えます。一緒に参加・活動できる取り組みを行うことで、障害を持つ方々の現状などについて知ることができ、そのことを知ることで今後どんな活動や取り組みが必要なのかを社会的に考えていくことができる。こうした考えを社会的に広めていくことで、インクルーシブな社会が実現されると考える。
- ・まずは知ることが必要だと思います。具体的には、交流及び共同学習で障害のある人の困難さや周囲の助けから生まれる温かさを授業の中で学ぶことです。このように障害のある人への少しの理解が積み重なることでインクルーシブな社会を作ることができると思います。

#### 8. このような活動に参加するにあたり、自分自身に必要なこと、さらに心がけたいことについて記述してください。

- ・必要なことは、子どもと共に楽しむことです。  
心がけたいことは、目配りや言葉掛けをすることです。それは、一人にいる子どもや疲れてしまい保護者のところにいる子どもに言葉掛けをし、一人一人を気を配っていききたいです
- ・年齢の低い子どもたちとうまくコミュニケーションを取ることができなかつたので、目線を合わせる、ハイタッチなどのスキンシップを取るなど何か自分なりの形を見つけて関係が構築できるように心がけたい。また、どの参加者の方も活動に対し楽しく取り組んでいるので、私自身もその気持ちに寄り添い、さらに楽しく活動を行うことが出来るように声掛けや意欲を引き出すようにしていきたい。また、私には経験値が足りないと実感したので、自分自身で積極的に活動などに参加し、経験値をつけていきたい。
- ・次回も参加させていただくので、もっと自分から積極的に話しかけに行きたいです。また、集中が途切れてしまう方がいるので、その方々のサポートに意識していきたいです。
- ・今回の活動に参加し、障害を持つ人と距離をうまく近づけるための自分自身のコミュニケーション能力を成長させていきたい。今回の活動では、多くの障害を持つ人と関わる事が出来たが、全て

の人と距離を近づけることは出来なかった。そのため、どのようにしたらすべての人と距離を近づけることが出来るのかを考え、自分なりの答えを持ち障害を持つ人と関わる事が出来るようにしていきたい。

そのためにも、今回のような活動を増やしていくことが必要だと考える。例えば、ボランティア活動だけでなく、民間事業の一つとして月に数回設定し取り組んだり、特別支援学校や特別支援学校の部活動との交流など、障害を持つ人とそうでない人が日常的に関わり意識し合うようになるように変わっていくことが必要だと考える。

文部科学省令和4年度「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」



## KASUGAI インクルーティブ アートキャラバン 参加者募集

- ◆7月2日(土):タペストリー制作      ◆7月16日(土):竹風鈴制作
- ♥参加者15名                                      ♥参加者15名
- ◆持ち物：水筒、タオル、汚れてもいい服装、描きたい絵が載った本など
- ◆時間：13:00～16:00
- ◆場所：中部大学70号館

\*講師プロフィール 藤原 孝太郎\*  
アジア子ども美術協会 (ACHAA) 代表  
アジア車いす交流センター (WAFCA) 理事  
元愛知県立安城特別支援学校校長



- \*障がいのある方を主に対象としたイベントです。参加費は無料です。一般の方の参加
- \*QRコードからお申し込みください。申し込み:令和4年6月1日～6月24日まで
- \*当日体調がすぐれない方は参加をご遠慮ください。
- \*当日はマスク着用での参加をお願いいたします。



申し込み QRコード



文部科学省令和4年度「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」

# 私の書道タイム

2022 8月7日(日)

第1回◆自分の名前を自由に書こう！

— 書体と書風 —

8月14日(日)

第2回◆「うちわ」に字を書こう！

— 生活に書を —

8月21日(日)

第3回◆みんなで大作に挑戦しよう！

— 書道パフォーマンス —

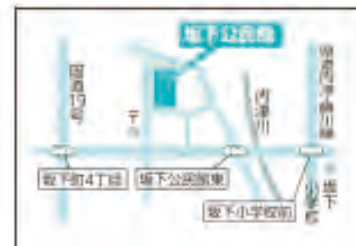
10:00～11:30 (受付 9:30 から)



とうふうくん

会場 坂下公民館 第3・4集会室

講師 書家・安達柏亭



対象 春日井市内在住・在勤・在学の障がい者（1人につき付き添い1人可）

\*障がいのない人も参加できます。

\*当日、体調がすぐれない方は参加をご遠慮ください。

定員 15人（先着順）

持ち物 水筒、タオル、汚れてもよい服装、マスク（着用にご協力ください。）

申し込み 7月29日(金)までに、QRコードから春日井市役所 文化・生涯学習課(Tel. 0568-85-6447)へ



主催 2015 NPO KIDS COLOR 春日井 子ども サポート

問い合わせ◆090-4163-4365(志村)



文部科学省令和4年度学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業

# 春日井市ドリームサッカーフェスティバル

## DREAM & PASSION

童夢くん Do-mu

熱希くん Atsuki

夢と情熱を持ち続けよう。

FERVORIは、地元春日井市に根付く幼児～中学生までを対象としたサッカークラブです。元Jリーガーや経験豊富な指導者が在籍しており、Jリーガーや様々な分野で活躍する人材を多く輩出しています。子ども達がサッカーを通して、より善き人生、素敵な人生を送ることが出来るよう共にチャレンジを続けるクラブです。

今回、共生社会の実現を目指し、春日井市ドリームサッカーフェスティバルを開催します。サッカーはボールひとつあれば誰でも楽しめるスポーツです。障がいのある方もない方も誰でもサッカーをやりたい人がやれる。そんな環境作りのきっかけになれば幸いです。私達と一緒にサッカーを楽しみましょう!!

◆開催スケジュール◆

10月9日(日) 13:30～15:30    10月23日(日) 13:30～15:30    11月13日(日) 13:30～15:30

※13時から保護者対象教室開催(自由参加)

◆場所◆

春日井インターフットサルクラブ(春日井市十三塚町3030-623番地)

◆会場HP◆

<http://kifcfervor.com>

◆申込先◆

申込フォーム

夢スポーツ事務局

<https://forms.gle/mRJmiqDik6eYHDRN8>

◆参加費◆

無料

◆問い合わせ先◆

[minnadeyumesports2021@gmail.com](mailto:minnadeyumesports2021@gmail.com)



- \*今回は、障がいのある方を対象にした事業です。
- \*市外の方もご参加いただけます。
- \*当日の検温や体調の優れない方のご参加はご遠慮願います。
- \*当日は体温計測・消毒等感染症対策を行います。

主催：春日井市・KIDS COLOR・FERVOR

## 6. 視察研修

<視察先1> 社会福祉法人麦の芽福祉会「ユーススコラ鹿児島」

〒892-0871 鹿児島市吉野町 4386-1 TEL：099-208-7878

<日時> 2022年10月18日（火）

<参加者> 伊藤佐奈美（中部大学現代教育学部教授）本事業連携協議会委員長

伊藤英彦（春日井市文化・生涯学習課課長補佐）本事業事務局員

寺谷直輝（大同大学等非常勤講師）本事業事務局員

田中良三（愛知県立大学名誉教授・NPO法人見晴台学園大学学長）

本事業コーディネーター・視察研修責任者

<研修内容>

10時00分 視察先（ユーススコラ鹿児島）着

午前の活動

12時00分 <昼食・休憩>

13時00分 午後の活動

15時00分 校長・教員との懇談会

16時00分 視察先発

---

### 行程表

<10月17日(月)>

14:00 中部国際空港 ANA 窓口集合

14:40 中部国際空港発（ANA 3189 便 鹿児島行）

16:00 鹿児島空港着

16:20 レンタカー

17:30 宿舎着（宿泊先）天然温泉 霧桜の湯 ドーミイン鹿児島

Tel.099-216-5489 〒222-0033 鹿児島市西千石町 17-30

☆夕食（ホテル近隣の飲食店・「ユーススコラ鹿児島」西園学園長等と懇親会）

<10月18日（火）>

9:00 ホテルロビー集合・出発

9:40 視察先着

↓

16:00 視察先出発

17:30 鹿児島空港着

18:00 鹿児島空港発（ANA2516 便、中部国際空港行）

19:20 中部国際空港着

19:30 解散

視察研修報告書	
名前（ 寺谷 直輝 ） 提出日（ 2022 年 10 月 19 日 ）	
視察日	2022 年 10 月 18 日
訪問先	社会福祉法人麦の芽福祉会「ユーススコラ鹿児島」
住所	〒892-0871 鹿児島市吉野町 4386-1 TEL:099-208-7878
視察日程	<p>&lt;研修内容&gt;</p> 10 時 00 分 午前の活動 見学 11 時 00 分 学園の概要説明と質疑応答(米衛副学園長) 13 時 20 分 午後の活動 見学 14 時 00 分 西園学園長との懇談会と質疑応答 16 時 00 分 視察先発
対応者	ユーススコラ鹿児島 学園長 西園健三 様 ユーススコラ鹿児島 副学園長 米衛政光 様
視察内容	<p>1・2組は生活介護事業を利用しているクラス(ライフプランニングコース)、3・4組は自立支援事業を利用しているクラス(セルフマネージメントクラス)で編成されていた。</p> <p>&lt;午前の活動&gt; 1組: こけを採る作業、2組: 調理実習(自分が作れるものを作る)、3組: 図書館へ外出、4組: 経済(お金の計算)</p> <p>&lt;午後の活動&gt; 1組: 衣食住(紐の結び方、特に、ちょうちょ結び)、2組: 調理実習の方付け、3組: 来週取り組む調理実習に関する学習(グラタン等)、4組: 図書館に関する事前学習と外出</p>
学んだこと	<p>(1) 「福祉型専攻科・大学」と位置づけていることが、教育の内的事項(取り組んでいる内容や方法)に留まらず、外的事項(校舎内の設備、支援員の呼び方が「先生」と自発的に呼んでいる)にも表れていたこと。</p> <p>(2) 卒業式を市の公民館で行ったり、教育活動に図書館などの社会教育施設を活用していたこと。社会教育施設の積極的な活用は、社会教育施設側にとっても、障害者の生涯学習を考えていく意識を醸成することにつながると考える。</p> <p>(3) 特別支援学校での勤務経験者が生活指導員の1/2程度である。また、学習内容や方法も、特別支援学校高等部の教育課程内でも十分に実現可能であること。</p>
その他	<p>(1) 県内最大規模の社会福祉法人であり、行政との信頼が厚く、連携も取りやすいと説明されていたが、このような行政と社会福祉法人との連携は、生涯学習を進める上で1つのキーポイントになると考える。一方で、学園長の話からは、障害者総合支援法に基づく各事業は日額報酬制を採っていることから、定員を超える利用者がいても、経営面ではかなり苦勞していると伺った。障害者総合支援法以外にバックアップできるやり方はないのだろうかと感じた。</p> <p>(2) 特別支援学校校長の経験がある前理事長とのつながりで、特別講師も 11名と充実していたが、一方で、「属人的」ではなく、市の生涯学習課等が主導となり、人的リソースを発掘したり紹介したりする役割を担い、必要があれば学びの場と講師希望者との間を調整するような「システム」も構築する必要があると感じた。</p>

<h2 style="margin: 0;">視察研修報告書</h2> <p style="margin: 0; text-align: center;">名 前( 春日井市文化・生涯学習課 伊藤英彦) 提出日 (令和4年 10月 21日)</p>	
視察日	令和4年 10月 18日(火)
訪問先	社会福祉法人 麦の芽福祉会「ユーススコラ鹿児島」
住所	鹿児島市 吉野町 4386-1
視察日程	10:30～12:00 施設見学、午前の授業視察、施設職員との懇談 13:00～15:00 午後の授業視察、施設職員との懇談
対応者	麦の芽福祉会 米衛 政光 理事 ユーススコラ鹿児島 西園 健三 学園長
視察内容	<p>高等特別支援学校等の課程を修了した障がい者の、就労する前の学びを支援する「大学」として設立された「ユーススコラ鹿児島」を視察した。</p> <p>【事業内容】 自立訓練、生活介護、就労移行支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 施設見学</li> <li>○ 午前・午後の授業の様子を視察</li> <li>○ 施設職員との懇談</li> </ul>
学んだこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校教育の課程では、決まった期間内での習得・成果を求められる側面があり、当事者の学ぶペースに合わないと自信を損ない、不登校等につながる場合があるとの説明があった。</li> <li>○ ユーススコラ鹿児島では、4組の学生が「今日は1組の方が快適にいられる」という理由から他クラスで授業を受けるなど、当事者の学びに合わせた柔軟な対応が行われている。</li> <li>○ 調理実習、紐の結び方、性教育など、障がいのある青年が自立するために必要な指導内容が、リアルな視点で組み立てられていると感じた。</li> </ul>
その他	○ 高台にある施設から見える景色は開放感があり、建物の周囲の植栽や菜園は手入れされていて、施設は明るく清潔な印象で快適な環境だと感じた。